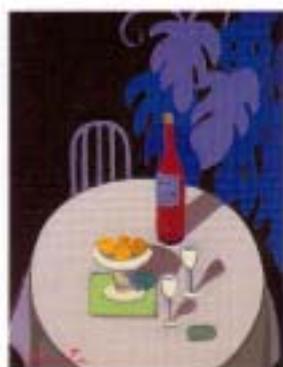


ボンジュール修太通信

神戸阪急10周年展・記念特集号



「円卓のワイン」(F8号)



「テラスからの眺」(F6号)



「緑の中のテーブル」(F8号)



「オレンジ色の時」(F6号)

2003年・夏

『エーゲの眺め』との出会い

ぶらっと神戸阪急へ主人と行ったのがそもそもの出会いで、私は隣の食器売り場にいましたところ、「恵子の好きな色の絵があるぞ！」と主人が戻ってきました。半信半疑で見に行っただのですが、其処でたちまち二人とも釘づけになってしまい「どうする」「どうしよう」のやり取りを何分間かした様に思います。その結果これこそ私共のほんとに大きな衝動買いでした。それ位素敵な絵！それがここまで私達の家庭に溶け込み、又大きなI礼拝-の源になるうとは。買って次の年にあの大きな地震に遭い、又その日がよりによって母の葬儀（出来ませんでした）とも重なるなど、何が何やら分らなく成って夢中で毎日を過しておりましたところ、森崎先生が胡蝶蘭の花を持ってお見舞いに来て下さりました。（・・・後日談では、花屋はコンテナでの仮店舗だったとか）なんと心温かい思いやりのある方だろうと、あの時の感激は生涯忘れないでしょう。

芦屋市 在住 前川忠雄・恵子



家に絵を飾ったあの頃は我が家ではまだ二人の息子達は独身でしたが、今では何れも結婚して子供も出来ております。私たちには三人の男の孫がおり年内にもう一人孫が増える予定です。この絵はまさに我が家の歴史であり、何かある度にこの好きな色合いの『エーゲの眺め』を見てI礼拝-をいただいております。これからもずーっとそして益々I礼拝-をもらい家族みんなが健康で過せればな～と改めて絵を見ながら振り返った次第です。森崎修太先生、神戸阪急10周年記念展おめでとうございます。

追記

妻が絵への思いを綴ってくれました。変動の10年なんとか乗り越えて来れたのも、妻が言う様に毎日何気なく絵を見てI礼拝-を貰っているからかもしれません。過日、展覧会・企画スタッフの石崎さんが原稿の件でお見えになった時、絵の高さを低くしていただきました。サイドボードに合わせて掛けていましたので高いままになっていましたのを良い高さにならしていただきました。位置決め調整もそこはプロ瞬く間に、本当に落ち着いた位置に収めていただきより一層絵が近くなったと喜んでおります。

KOBE



DM解説



7年間暮らしたパリの街の空気は、画家にとって心地よい陽射しとくつろぎの風景として蘇る。それは、苦難の時代があったとしても・・・憧れは変わらない

「Parisの生活」F20号

「Aegean blue に魅せられて」

神戸市 東灘区在住 矢田 絢子



平成8年初夏、私は意に反して仕事をやめ少々落ち込んでいました。まあ今までに出来なかった事を始めてみよう、気を取り直したやさき母の介護という新たな現実が立ちはだかり、お先真っ暗になってしまいました。そんなある日、神戸阪急から届いたDMに「エーゲの昼下がり」を見つけたのです。自分でも気づかずに心の奥底で探し求めていた物がみつかった、そんな感じでドキドキしながら個展会場へ向かいました。この絵が届いた日、私は深いブルーの中で時を忘れました。それ以来ずっとこの絵は、嬉しいとき、悲しいとき、つらいとき私をつつみこんでくれます。今、私の夢はこの風景の中に立つこと、そしてその日が、一日も早く来ることを願っています。



どうか、これからも素敵な作品を描き続けてください。



「森崎修太さんとの出会い」

兵庫県 三田市在住 富永貴則

絵は好きだが、足繁く画廊に通ったり、個展を見に行ったりすることがほとんど無かった私が、98年の夏、神戸阪急最上階の絵画展にふらっと入ってみた。すると中に同業者（精神科医）のM先生がいて、手招きをしている。画伯を紹介してくれた。それが、森崎修太さんとの出会いであった。私はひとつひとつの作品に圧倒され、立ちすくんでしまった。それらの作品をすぐにでも欲しいと思ったが、衝動買いするには少々高すぎる。私は3日間考えた。どうしても欲しかった。オレンジ色に染まった夕空を背景にした「イスタンブール」を手に入れることができた。

以来、夏になると修太氏の個展を楽しみにするようになった。仕事柄、来る日も来る日も患者さんの「怒り」「悲しみ」「不安」といった混沌の中に身をおいている。そのためか自宅に掛けてある修太氏の絵の明快さに私は安堵感を覚える。先輩のM先生は修太氏の作品を病院に飾っておられるという。未熟者の私は、そこまでの懐の深さは持ち合わせておらず、修太氏の作品を独り占めしている。



「絵と私」



神戸市 東灘区在住 谷岡孝子

森崎先生とのご縁は神戸阪急美術サロンで開かれていた先生の作品展の時、デパートにお買い物に出た私が何気なくギャラリーに寄ったのが最初でした。一目で先生の絵のシンプルな構図と色彩に魅かれました。それから何点か先生の作品を求めましたが、私にとって魅力なのはその『色使い』だと思います。

私は小さいときから「きれいな色」が好きで、お洋服を選ぶときも先ず色を見て、それから顔映りの良し悪し・素材・デザイン・サイズで選びます。その好みは絵を見るときも同じです。夫と私は旅行が好きで年に数回海外へ出かけますが、どの国でも必ず美術館に足を運び数多くの世界の名作といわれる絵や彫刻などを見て参りました。数々の絵に描かれた淡く溶けてしまいそうな色合い・深く静かな色合い・心躍るような鮮やかな色合いなど色の魔術に心を奪われます。一度森崎先生に「なにもおっしゃらなくても谷岡さんのお好きな作品はすぐに分かります」と言われてしまったことがあるのですが、誠に正直に気に入った作品の前では穴の開くほど見とれる代わり、そうでないものだと足も止めないという私の偏った鑑賞ぶりを先生に指摘されてしまいました。そもそも絵画の知識など全くない私が絵のことについて書いて欲しいと頼まれ、こうしてお引き受けして投稿するなど厚顔もいいところですが、絵は油絵・日本画・水彩画など一通りお稽古したくらい見ることと同じくらい描くことも好きです。いろいろな絵の中でどちらかというと繊細な線と色とで描き出す日本画が好きです。森崎先生の作品は油絵でありながら、日本画のようなタッチで簡潔に描ききったところが私の好みに合うのだと思います。年に一度神戸での作品展のときにしかお目にかかりませんが、先生のまじめで気取らないお人柄に甘えて遠慮のない感想を申し上げても、にこにこ受け止めてくださり、いつもご丁寧にお手紙など頂戴し恐縮いたしております。これからもますますご活躍なさることと楽しみにしております。



「森崎 修太画伯との出会い」

神戸市 西区在住 大坪弘明

今から二十数年前の夏の暑い日の午後のことだった。大阪ガス本社ビルの近くの画廊に立ち寄ったところ今まで見たことのない絵が目にとまった。どうやら個展のようで同じ作家の絵が所せましと展示されていた。入口の絵に引きつけられて二階の展示室へと行った。すばらしい絵の世界へ引きつけられて足が床にくぎ付けになってしまった。口もとに髭をたくわえたスラリとした壮年に会った。森崎画伯との出会いの日である。絵は勿論のこと先生とも話はずんだ。20号の「ラ・セーヌ」という風景絵を買うことに決めた。まさにひとめぼれである。その後私は広島や名古屋等あちこち転勤で動いたが、どこにいても個展の案内を頂いた。名古屋の時は二回程お会いする機会があった。うれしかったのは先生の絵が有名企業のカレンダーに採用になった時である。好評だったので、いくつかの会社が先生の絵でカレンダーを作るようになった。絵の内容もだんだん変わって来た。一昨年神戸阪急の個展で20号のテーブルに花のある絵を購入させて頂いた。我が家のリビングに6枚の絵があるが、その中の二点が先生の絵である。毎日楽しませて貰っています。



「修太先生のファン」

大阪府 高槻市在住 小野秀太・左親子

森崎修太・神戸阪急 10 周年記念展開催おめでとうございます。先生の絵の出会いは 10 年前になりましたか。家内と神戸阪急をぶらついていましたところ、突然見覚えのある光景に引きつけられるように画廊に入りました。そこには鮮やかな地中海ブルーの海辺で白いシャツを着た絵描きさんが絵を描いているそんな絵がありました。二人がじっと見入ったのは 20 数年前二人で



セアット 500 を借りて旅行した事を思い出したからです。バルセロナから 2 ~ 30 キロ離れたフランスに近い海岸の町「カダケス」の絵だったので。目に今でも焼け付いている真夏のカダケスの真っ青な海岸、その近くにはサルパドレ・ダリの大きな門と白い館がありました。『先生もそこに滞在されていたのですね』としばらくお話しができ、そんなことや先生の人柄、それに修太というお名前に親近感を覚えたりして、しかしなによりも誰にもまねできない「カラー」そして何かほっとする優しさ、部屋も気持ちも明るくなる絵なのです。 その後も東京の個展にも伺ったり、家内と二人の娘共々先生の大ファンとなっております。近年はイタリアに行



かれた「トスカーナの午後」も大変気に入って、居間には年中かかっています。 今後もさらに鮮やかなカラーに磨きをかけられ私たちを楽しませてくださるよう期待し、先生のご健康とご活躍を心からお祈りしております。おめでとうございます。

取材風景・毎日放送 2002 夏



「パリ旅行から帰って・・・」

神戸市 東灘区在住 大山浩江

森崎修太先生、神戸阪急百貨店出展 10 周年おめでとう御座います・

先生との出会いは、お稽古で一緒にの友達の紹介で会場に行ったのが最初の出会いです・

ヨーロッパへ旅行してからまだ日が浅かった時でしたのでセーヌ川からノートルダム寺院を描かれた絵を觀て、大変明るく綺麗な色彩で感動致しました。早



速、其の絵を購入させていただきました。リビングに飾っていて台所で食事の支度などをしながら、いつも観ることができて癒して貰っております。そして其の後も毎年観に行かせて頂いて居りますがいつも本当に色彩が綺麗で、心の中が穏やかな気持ちになります。そういう絵が先生の作品だと思っております。どうかこれからも心安らぐ素敵な絵を描き続けて下さい。



先生のご健康と益々のご活躍を心からお祈り申し上げます。